



なみ

き

埼玉県議会議員

並木まさとし

無所属
県民会議
SAITAMA



発行者
連絡先

埼玉県議会議員 並木正年
〒365-0038 鴻巣市本町 3-2-19-B
TEL 541-7777 / FAX 543-8000

日頃の活動は
ホームページで!

並木まさとし

検索

namikimasatoshi@soleil.ocn.ne.jp



県議会 2 月定例会が開催されました（会期日程：2 月 2 0 日～3 月 2 7 日）

一般会計当初予算 1 兆 9, 6 0 3 億 1, 5 0 0 万円（前年比 3. 8 % 増）

「安心・元気のスタートアップ予算」

県土整備部 「災害に強い埼玉の構築」 10,582,124 千円（直轄事業を除いて前年比 14. 4 % 増）

3つの柱 その① 県民の安心・安全をしっかりと確保



- * 堤防の強化・河道の確保・排水機場の耐震など、災害に強い県土づくり
- * 県管理道路の橋りょうの耐震補強と修繕（御成橋・郷地橋・鴻中陸橋・糠田橋・野通橋）
- * 緊急輸送道路の無電柱化 54.1 km（H30 年度末）→56.8 km 以上（R3 年度末）
- * 川口市内に警察署（仮称 川口北警察署）の新設用地を取得、越谷警察署庁舎の改修
- * 高齢者運転講習の受け入れ枠拡大のため新施設の設計（旧小児医療センター跡地・岩槻）
- * 医師の後期研修の指導体制の強化と後期研修医師の県内への定着
- * さいたま赤十字病院と埼玉医大国際医療センターの 2 か所の救急救命センターに 365 日・24 時間体制のドクターカー広域運行拠点の整備

3つの柱 その② 持続可能な成長と発展



- * アニメと e スポーツなどのコンテンツ、渋沢栄一翁を活用した観光振興
- * 医療やロボットなど、重点 5 分野の研究から事業化までの支援
- * スマート農業技術の実証・栽培管理を自動化する機械の導入支援
- * 森林資源情報を市町村と共有するためのクラウドシステムの構築
- * 「*①埼玉版スーパー・シティプロジェクト」の具体的な検討
- * 「*②あと数マイルプロジェクト」推進のため、公共交通の利便性向上策の検討を実施
- * オリンピック・パラリンピックを契機とした文化・芸術の振興
- * ①民間などと連携し、エネルギーを効率的に利用できるインフラの整備からコンパクトな街の実現
- * ②埼玉高速鉄道・都営大江戸線・多摩都市モノレールなどを延伸し県内の駅につなげる
- * 8 地区の産業団地の整備（鴻巣箕田地区 R2 年度予算 2,016,982 千円 調整池・造成工事等）

3つの柱 その③ 誰もがいきいきと活躍



- * 民間スポーツ施設などと連携した「コバトン健康マイレージ」のポイント付与と参加者の拡大、健康寿命の延伸と医療費の抑制
- * ボランティアや就労相談など、シニア向けのワンストップ型総合窓口の設置
- * 県内私立高校生に対する授業料等の負担軽減を年収 720 万円未満世帯まで拡大
- * 病児保育施設の整備促進、県内 2 か所で病児保育送迎システムのモデル事業を実施
- * 多様な働き方実践企業の拡大とテレワークなどの働き方改革の支援
- * 外国人の日本語学習支援と多言語の相談体制・情報窓口の運営
- * 学校を核とした外国人親子への支援と地域住民との交流の仕組みを構築
- * 保育所等に入所している第 3 子以降の児童（満 3 歳未満）を対象に保育料を軽減

5か年計画における主な施策

～未来への希望と生活の安心～



- * 待機児童対策として認可保育所の整備、5,300人分の保育サービス受け入れ枠を拡大
- * 潜在保育士の希望勤務形態に応じた貸付事業を新設
- * 熊谷児童相談所の移転新築と一時保護所の整備
- * 児童相談所7か所に児童福祉司と児童心理司を増員
- * 安全な水を提供するため、県営浄水場に高度浄水処理施設を整備
- * 先進的がん医療の提供(CAR-T細胞療法)
- * 県立小児医療センターで、さいたま赤十字病院との連携による小児生体肝移植の実施
- * 「こうのとりの検診(夫婦そろっての不妊検査)ウエルカムベビープロジェクトの推進



～人財の活躍と成長の活力～



- * 就職氷河期世代の雇用促進、企業とのマッチングを実施
- * 県南部・東部地域に新たな特別支援学校と分校を整備
- * 県立学校で端末を持ち込み授業で活用するBYODの実証
- * 障害の特性に応じたICT環境の整備、学習用タブレット等の段階的な導入
- * 社会課題の解決に資する新技術・新製品開発への助成
- * 中小企業の省力化・外国人材・事業継承のため、アドバイザーによる訪問支援
- * 企業の省エネ対策を推進するため、IoTを活用した省エネ設備などの導入支援
- * 身近な緑の創出と乱開発のおそれがある貴重な緑地の保全



～魅力と誇りを高める～



- * 令和3年に埼玉県誕生150周年に向けた機運を醸成するためのイベント開催
- * 「彩の国いきがい大学」をリカレント教育の場として実践的なカリキュラムに刷新
- * 世界で活躍できる人材育成のため、姉妹友好州省との国際交流
- * 屋内50mプール、スポーツ科学拠点施設整備の推進
- * パラリンピック出場が期待される県ゆかりの選手に対する助成と障害者スポーツの推進
- * 人口減少地域の企業に就職し移住した方、起業した方への支援金の支給



大野知事が県内の企業や団体を訪問し、優事例や現場の声を県政の施策に取り入れる『知事のふれあい訪問で、コンタクトレンズを製造する吹上地域の(株)シード鴻巣研究所・ふくろうの森保育園(シード保育園・学童保育フクロウの森)・花久の里を訪問しました。

(株)シード鴻巣研究所は450名の正社員と203名のパートさんが勤務しており、厳しい衛生管理のもと1日あ

たり約150万枚のコンタクトレンズを24時間体制で製造しています。

環境への配慮と取り組みについては社内基準のブループロジェクトを遵守し、製造過程で型から排出されるプラスチックを運搬用パレット等に加工・再利用することで、県が定める企業のCO2排出基準を達成しています。

「ふくろうの森保育園」は人口や出生数の減少など、鴻巣市が抱える地域課題と企業課題である子育て世代のお子さんの預け先や出産後の離職などをマッチングさせることで、地域を取り巻く生活環境に対応しています。

花久の里は花・食・音楽のコンセプトから薔薇を活かした庭や手作り品で飾られる茶室など、ボランティアの皆さんが積極的に参画することで地域おこしから、賑わいの創出に繋げている施設です。川里産の小麦「あやひかり」100%を原料にした「田舎汁うどん」に知事も舌鼓を打っていましたよ。

データで見る埼玉の過去と現在

総務省 国勢調査を基に作成

| | | | |
|---------------|-----------------------------|-----|--------------------------|
| 人口 | 387万人(1970年) → 733万人(2020年) | 世帯数 | 97万(1970年) → 316万(2020年) |
| 第1子出生時の母の平均年齢 | 27.4歳(1993年) → 30.8歳(2018年) | | |
| 未婚率30～34歳(男性) | 29.7%(1985年) → 49.1%(2015年) | | 50歳(24.8%) |
| 未婚率30～34歳(女性) | 8.4%(1985年) → 34.5%(2015年) | | 50歳(13.0%) |



昭和45年(1970)鴻巣市本町生まれ/鴻巣幼稚園/鴻巣東小学校/鴻巣中学校/埼玉栄高校(サッカー部)/亜細亜大学経済学部国際関係学科卒/セントラルワシントン大学AUAP課程修了/鴻巣幼稚園保護者会副会長/鴻巣東小PTA副会長/鴻巣市商工会青年部第31代部長/第8回こうのす花火大会代表/鴻巣市消防団第2分団員(23年目)/鴻巣市議会議員2期/H27年～埼玉県議会議員/産業労働企業委員/自然再生循環型社会対策特別委員/5か年計画等特別委員/家族/妻・長女・長男・愛犬レオ

プロフィール